

お知らせ

第4回高崎健康福祉大学
同窓会総会開催予定の
お知らせ

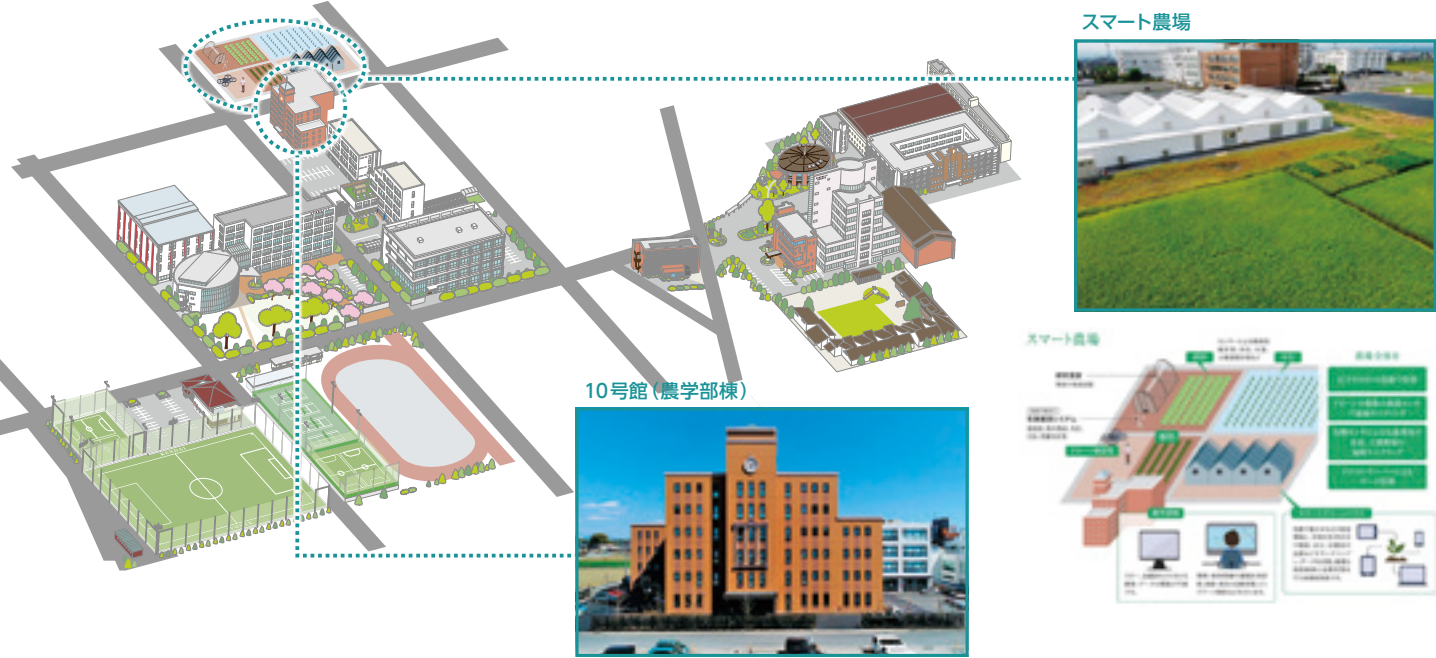
以下の日程で第4回高崎健康福祉大学同窓会総会の開催を予定しております。別途、令和5年4月以降にお知らせ通知を送付いたしますので、ご参加の程お願い申し上げます。

日時／令和5年6月3日(土) 13時～16時 場所／エテルナ高崎 5F ティラール

今回の発行を持ちまして紙媒体での発行を終了とさせていただきます。次号より大学ホームページにて電子版を公開します。予めご了承ください。

<https://blog.takasaki-u.ac.jp/center-blog/dousoukai>

新施設



沿革 History

昭和11年度	須藤和洋裁学院を高崎市に創立
昭和41年度	学校法人「須藤学園」となり群馬女子短期大学の設立
平成13年度	学校法人「高崎健康福祉大学」と改称し、高崎健康福祉大学を設立
：	：
平成29年度	本部・支部役員研修会：横須賀方面(10月14日) 同窓会会報「Amicale」第2号発行 健大高崎高校の春の選抜出場協力金として50万円寄付

平成30年度	高崎健康福祉大学大学院保健医療学研究科(理学療法専攻修士課程)を開学。 高崎健康福祉大学 第3回同窓会総会(6月2日 於 エテルナ高崎)
令和元年度	高崎健康福祉大学農学部生物生産学科を開学する 高崎健康福祉大学10号館校舎(農学部棟)が完成する。 高崎健康福祉大学同窓会活動助成募集開始 健大高崎高校の春の選抜出場協力金として50万円寄付
令和2年度	健大高崎高校の春の選抜出場協力金として50万円寄付
令和4年度	高崎健康福祉大学大学院農学研究科(生物生産学専攻博士前期課程・後期課程)を開学する

同窓会本部より

- ・慶事等でご連絡いただいた方には同窓会より電報をお送りいたします。
- ・転居、改姓等変更がございましたら、第〇回生ということと変更したところをはがきまたは同窓会ホームページで必ずお知らせください。

※URL <https://www.takasaki-u.ac.jp/sotsugyo/dousou>

同窓会会員数 17,913人

R4年 10月末 現在	健康福祉学部	4,087	人間発達学部	602
	薬学部	926	群馬女子短期大学・ 短期大学部	10,592
	保健医療学部 ※看護学部含む	1,620	大学院	86

編集
後記

令和5年6月に第4回同窓会総会を開催します。たくさんの方の会員の皆様に出席していただきたくお知らせも兼ね、会報を発行する運びとなりました。

今回の会報では、石田朋靖新学長の紹介、同窓会事業の紹介を中心に構成しております。

令和元年度4月に農学部が開学し、はや4年が経ちました。本年4月より初めての卒業生が社会へと旅立ちます。また、農学部卒業生が新たに同窓会会員へ仲間入ります。

暖かく迎え入れていただけると幸いです。

今後とも高崎健康福祉大学同窓会を宜しくお願い致します。

編集委員

井上信、清水研介、卯月綾華、羽鳥彩也美

Amicale

アミカル

発行●高崎健康福祉大学同窓会

事務局●〒370-0033

群馬県高崎市中大類町37-1

☎027-352-1290(代)

<https://www.takasaki-u.ac.jp/sotsugyo/dousou>

2023(令和5)年2月第3号



会員の皆様へ

同窓会長 内田 幸子

同窓会会員の皆様におかれましては、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。日頃より同窓会の活動にご理解とご協力をいただき、ありがとうございます。皆様のお手元に Amical 第3号をお届けいたしますのでご覧いただければ幸いに存じます。

私たちの母校である高崎健康福祉大学は、創立者須藤いま子先生が昭和11年に須藤和洋裁学院を設置されてから87年、平成13年に須藤賢一理事長先生が高崎健康福祉大学を開学してから22年の歳月が経過しました。この間、須藤賢一理事長先生のリーダーシップのもと、5学部8学科を擁する県内私立大学のトップとして、専門職の人材育成、学術の専門性、クラブ活動の活躍等それぞれに高い評価を受けていることを大変嬉しく、また誇りに感じているところです。

本会は群馬女子短期大学と高崎健康福祉大学、同短期大学部、同大学院の卒業生によって組織され、現在17,913名の会員が所属しております。2期にわたり会長をお引き受けし、役員・支部の皆様と活動を続けてまいりましたが、この3年間はコロナ禍で会議や活動が制限され、模索の連続でした。継続している年間事業としては、高崎健康福祉大学奨学金への出資、海外研修プログラムへのバックアップ、学園事業への支援、大学行事への参加等を実施しております。新たに、各学科の同窓会活動、支部活動に対して、活性化を図るために活動助成を行い、本報でも活動の一部を紹介させていただきました。シンポジウムの開催、ホームカミングデーを通して卒業後の学び、同窓生間の交流、在学生との交流を図ることができたと考えております。今後の同窓会活動ですが、会員の皆様ならびに在学生の皆さんにとって魅力があり、繋がりを持つ活動を進めてまいります。皆様からのご意見やアイデアをお寄せいただければ幸いです。

また、本学のホームページに同窓会ブログサイトを立ち上げ、会員の皆様に少しでも同窓会活動を知ってもらい、活動に参加していただけるよう準備を整えております。今後の活動に関しては、ブログサイトを中心に皆様に発信していければと考えておりますので、ご確認いただきますようお願い申し上げます。

同窓会会則には「本会は会員相互の親睦向上と母校の発展に寄与することを目的とする」と記しています。育てていただいた母校に対して何ができるか、これから母校で育っていく在学生や将来の学生に対して私たちは何ができるのかを考えながら、この目的の遂行のために微力ながら力を尽くす所存です。皆様の一層のご協力とご支援をお願い申し上げます。



同窓生の活躍に想いを寄せて

同窓会名誉会長 宮田 正枝

Amicale 第3号の発行、心よりお喜び申し上げます。同窓会においてはコロナ禍での三年間、本部支部役員の皆様は会議もままならない中、会員の皆様の情報、活躍に心寄せていらしたと思います。

私は健大の前身である群馬女子短期大学の一期生です。昭和54年創立者須藤いま子先生より同窓会長という大任を拝命、33年間同窓会発展の為、努めてまいりました。現在は須藤賢一理事長より名誉会長という名誉ある役職を頂き、今も母校に対してお役に立てることを考えている日々です。

健大を愛する気持ちは誰にも負けません。生涯健大の発展を見守り続けて参ります。

群女短大の家政科から始まった本学は、須藤賢一理事長の強いリーダーシップのもと2001年に四年制の大学、高崎健康福祉大学として新たなスタートを切りました。県内初の薬学部や農学部を創設、現在5学部8学科という全国に誇る大学に発展しております。就職率も100%と社会に益々の評価を高めております。

さて社会においてはいまだに数々の戦争、気候変動、自然災害など数多くの問題を抱えております。特に映画【ひまわり】で描写された広々とした草原ウクライナが、ロシア軍の侵攻により多くの避難民が出ている現実。ウクライナは今、氷点下20～30度という寒さと暗闇におびえております。一刻も早いロシア軍の撤退を切に願います。平和であること、平凡でもいい一日一日成長し続ける生涯でありたいと願う日々です。そのためには読書の習慣、特に良書との出会いで自分を磨くことが大事だと思います。健大ブランドを更に上げるためには、会員の皆様のご活躍が大切です。

健大の理念「人類の健康と福祉に貢献する」また教育方針「自利利他」の精神を心に留め、社会にあつては第一人者、地域にあつては良きリーダーとしてご活躍されることを願います。大学という場所は社会に出る最後の学びの場です。ここで培った友情、知識、経験が更に磨かれ社会に反映されていくのだと思います。この同窓会というネットワークを活用して、現役学生に対して役に立てることを考えることは、学生たちの社会での飛躍につながり、健大ブランドを高めていく事になると思います。これからも現役学生たちに思いを寄せ続ける事。これこそが私たちができる大きな社会貢献につながると信じております。

結びに私自身も現役学生を温かく見守り、自分自身を磨き、健大ブランドを誇りとして、頑張ってまいりたいと思います。会員の皆様のご健闘とご多幸、ご活躍を心からお祈り申し上げます。



Amicale 3号の発刊に寄せて

理事長 須藤 賢一

短大、大学の同窓会誌 “Amicale” 第3号の発刊おめでとうございます。Amicale はフランス語で「親しみのある、友情のこもった」という意味です。本学同窓会誌の名称として正にふさわしいタイトルだと改めて実感しました。

2020年1月に我が国初の新型コロナウイルスの感染者が発生しましたが、それ以来今年で3年目になります。時間の経過とともにようやくウイルスの性状や対処法など明らかになって、社会もwith corona(virus) を志向する雰囲気になってきました。全てがコロナ禍以前には戻らないかもしれませんが、人々の行動に制限が課せられることも少なくなると思います。中止あるいは規模を縮小せざるを得なかった様々な学校行事もコロナ禍以前に戻り、生き生きとした元気な児童や生徒、学生の姿が戻ってくるかもしれません。また、社会の活性化とともにコロナ禍で落ち込んだ経済の再生、復興を願わずにはられません。

さて、健大は群馬女子短期大学を母体にして健康福祉学部3学科で2001年に開学し、今年で23年の年月を刻むことになります。現在、大学は5学部8学科、大学院は4研究科の体制となり、健康・福祉領域の総合大学に発展してきました。学部入学定員は2660名で現在2800名ほどの学生が医療、福祉、情報技術、保育と教育、食と農など人間の生存に密接に係る専門分野の知識と技術の修得に学びを深めています。将来彼らが我が国社会を支え、また海外で活躍する人材へと成長することが楽しみでなりません。なお、2001年の大学の設置とそれ以降の学部学科新設の過程につきましては、昨年「素人の大学づくり」というタイトルで出版しました。

現在、保健医療学部の新校舎建築を計画しております。来年竣工の予定で、同時に大学専用のアリーナも着工の予定です。現保健医療学部校舎である高校側敷地にある8階建てビルと5階建ての旧本部棟は共に解体して、跡地に高校専用の体育館を建設する予定です。数年後には学園の姿が一新されますので楽しみにしていただければ幸いです。

今年は西暦で2023年、元号では令和5年。兔年になります。これからは少子化の歩みが早まり、学園にとっても厳しい時代が続くことになります。学園の維持・充実のために発想の転換を図るとともに、工夫を重ねていく所存です。

同窓生の皆様のご健勝とお幸せを祈るとともに、一層の発展を期待しております。



“誰かのために生きる私”を育てる

学長 石田朋靖

同窓会の皆さん、日頃より母校学生への経済的サポートを始めさまざまなご協力を頂き本当にありがとうございます。昨年4月から母校の学長を務めている石田と申します。上毛からたで「三波石と共に名高い冬桜」と詠まれた鬼石町(現藤岡市)で生まれ育ち、多感な高校時代を高崎で下宿生活したのち、東京、山形、宇都宮の大学を経験し、一昨年の4月に故郷に戻ってきました。約半世紀ぶりに住むことになった高崎は、伝統的な文化を大切にしたい街づくりや住民サポートも充実し(何と高齢者は市立美術館が観覧無料!)、これまで住んできたどこよりも住みやすい街と感激しています。

須藤いま子先生が86年前に礎を築かれた本学は、須藤賢一理事長・前学長の綿密な分析と社会予測、チャレンジな決断とリーダーシップにより22年前に四年制大学として飛び立ちました。以来、本学は時代のニーズをしっかりと捉えた形で飛翔し、現在は5学部8学科に2850名の学部学生が在籍し、さらに大学院の4つの研究科には50名の大学院学生が在籍するという、質・量ともに県内私立大学のトップに立っています。皆さんの後輩たちは文武ともに活躍を続けており、関係する各種国家試験の合格率は例年全国トップクラス、就職率もほぼ100%を維持し、本年4月に初めて卒業生を出す農学部では東農大や新潟大を抑え群馬県の農業職12名の合格者中5名を占めるという大健闘をしてくれました。また今年度のスケート部は、国内の学生選手権で総合優勝を果たし、世界大会にも選手が参加するなどの大活躍をしてくれています。

皆さんご存じのように本学の建学の精神は健大スピリット“自利利他”です。それは他人の喜びを自らの喜びと思えるマインドであり、学歌“夢のはじまり”の中に“ただ生きるのではなく 誰かのために生きる私になりたい”と歌われています。こうしたマインドを持って人類の健康と福祉に貢献する人材を育てること、それが本学の目標です。すなわち、健やかな心身を支える医療、薬学、栄養、食農、そうして健やかな社会を支える福祉や子どもの教育などの専門分野で人間愛をもって貢献し社会から喜ばれる人材を養成することです。こうした人材は、国際的にも世情が不安定で格差が進む社会、高齢化が進む社会において、誰もが幸福感を抱けるWell-being社会を目指すうえで、これまで以上に重要な役割を果たすことになります。そのためには、社会的背景も含め全人的視点を持って対象者に寄り添う姿勢を養う必要があり、単なる高度な専門知識だけではなく健康と福祉に対する幅広い視野と、生涯にわたって学び続ける姿勢が必要です。皆さんの母校は、こうした幅広い視野を養い得る健康福祉系の総合大学に発展してきました。そうしてその根本にある“自利利他”の精神を大切に、Well-being社会をリードする大学として更に発展を続けていきます。

Conferment 須藤賢一理事長が令和3年秋の叙勲を受賞いたしました



令和3年秋の叙勲受章者が令和3年11月3日付で政府より発令され、須藤賢一理事長が長年の私学振興の功績により群馬県ではただおひとり「旭日中綬章」を受章いたしました。

Report 高崎健康福祉大学同窓会活動助成実施報告

看護学科(令和4年実施)

看護学科ホームカミングデーを卒業後1～3年目を対象に3年ぶりに藤龍祭と同日に開催した。第一部では、ストレス解消と看護ケア技術の習得を目的にアロママッサージを行い、第二部では、先生方を交えて交流会・相談会を実施した。今後も健大看護学科の卒業生に寄り添った活動を目指し、継続してホームカミングデーを実施していきたい。



活動実績

(令和元年)
看護学科 「心の健康を守ってより良いケアを！保健医療職のストレスマネジメント ～しあわせ笑顔になるヒント～」

社会福祉学科(令和4年実施)

本学科卒業生(行政、社会福祉協議会、病院等に勤務)がコーディネーター、パネリストとなり、子どもの貧困や貧困問題の現状や対策等を幅広く意見交換することを目的として公開シンポジウムを実施した。



薬学科(令和元年実施)

薬剤師を対象に、薬局における外国人患者対応を学ぶためのワークショップを実施した。内容は主に①講演、②ミニ英会話教室、③外国人模擬患者を相手としたロールプレイから構成された。患者役から「実際に薬局でこのような対応を受けたことはなく、是非日常的に対応してほしい」という意見が、参加者からは、「今回学んだことを今後ぜひ実践したい、今後も同様の研修会を継続してほしい」という意見が多数聞かれ、有意義な研修であったと考えられる。



高崎健康福祉大学奨学金給付式

高崎健康福祉大学奨学金給付式が執り行われました。同窓会からも事業の一環として大学奨学金に寄付しております。

給付者数	
平成30年度	64名
令和元年度	65名
令和2年度	70名
令和3年度	67名
令和4年度	69名